

立命館大学環太平洋文明研究センター第16回研究会

2017年7月18日(火)18:00-19:30

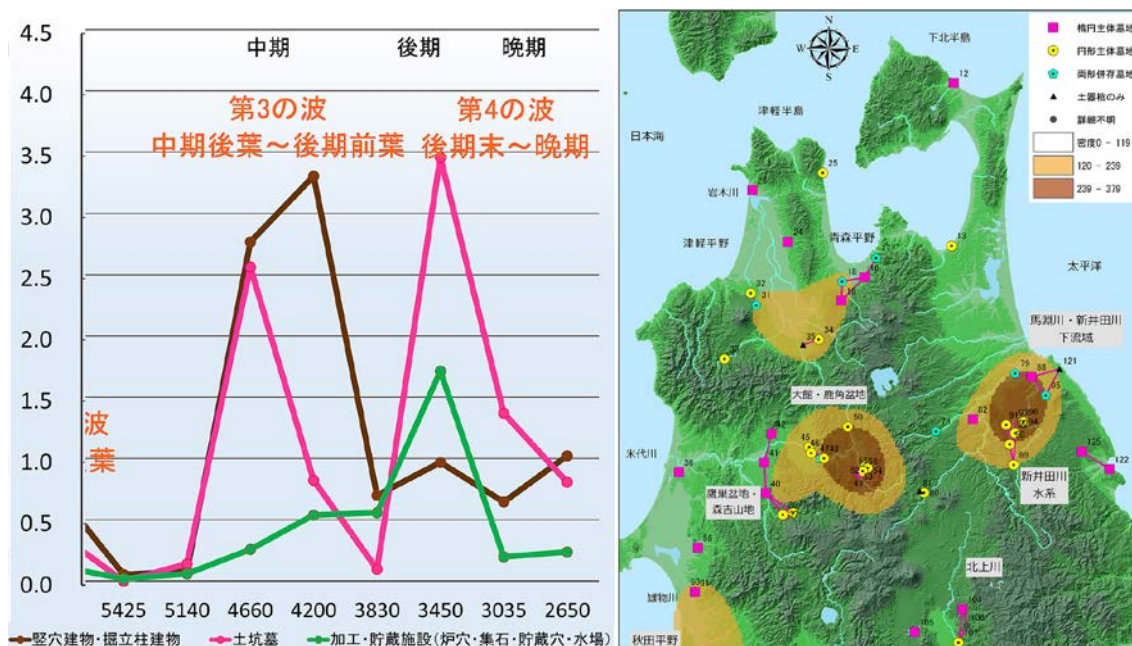
立命館大学衣笠キャンパス学而館研究会室1

遺跡データベースから人口を推定する

—統計解析とGISで変動と地方差を読み解く—

中村 大

(立命館グローバル・イノベーション研究機構専門研究員：考古学)



構築を進めている関西縄文遺跡データベースと北日本遺跡データベースをもとに、長期的な人口変動の推定と地方差について現在の分析状況を報告します。GIS空間分析を用いて人口の空間的偏在性を可視化する手法も紹介します。縄文時代を中心とするが、東北・北海道については、古代・擦文時代まで含めた推定結果を解説します。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP：<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppp/>